

地震に対する心構え

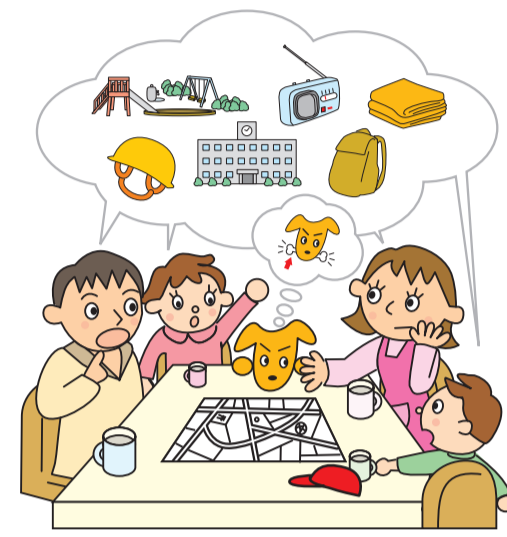
家庭で防災について話そう

家庭で地震対策の話をしよう

1 家の内外の危険箇所チェック
2 家具などの配置安全対策
3 家庭内の整理整頓
4 非常持出品のチェック
5 消火器などの消火の備え

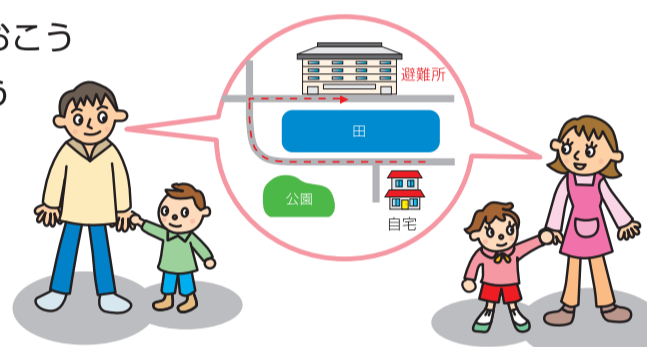
防災家族会議のテーマ

- ◆避難場所の位置確認
- ◆災害時の連絡方法
- ◆自宅付近の防災マップづくり
- ◆複数の避難経路の安全確認
- ◆高齢者や乳幼児、病人などの避難方法
- ◆地震情報の入手方法
- ◆地震が起きた時の各自の役割
- ◆警戒宣言が発令されたときにすること



災害時の連絡方法や避難場所の確認をしよう

- ◆家族が離ればなれになってしまったときの連絡方法を確認しておこう
- ◆家族の避難場所・集合場所を確認しておこう
- ◆家族みんなで避難場所まで歩いてみよう



日頃から備えましょう～身の回りの備え～

家の中の安全対策

- ①家の中に逃げ場として安全な空間をつくる。
- ②寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない。
- ③安全に避難できるように、出入口や通路には物を置かない。
- ④家具は倒れにくいように置く。

家の周囲の安全対策

- プロパンガスのボンベは2本の鎖でしっかり壁に固定する。
- アンテナや瓦は固定する。
- 水抜き穴は詰まっていないか。
- ベランダには落下する恐れのある植木鉢等を置かない。
- ブロック塀や門柱はひび割れていないか。
- 基礎はしっかりしているか。
- 支え壁はあるか。

阪神・淡路大震災ではこんなものが役だった

- 公衆電話をかけるための10円玉
- 断水時は風呂代わりとしてドライシャンプー、ウェットティッシュ
- 店舗所を知らせるための笛（ホイッスル）
- 配給品などを運ぶキャリアカード（ペビーカー）
- 水を運ぶポリ容器
- 携帯コンロ
- 救出や脱出のためのパル、車のジャッキ
- 野菜不足を補うビタミン剤
- 予備の老眼鏡・補聴器・入歯
- 大きめの防水シート
- 移動のための自転車

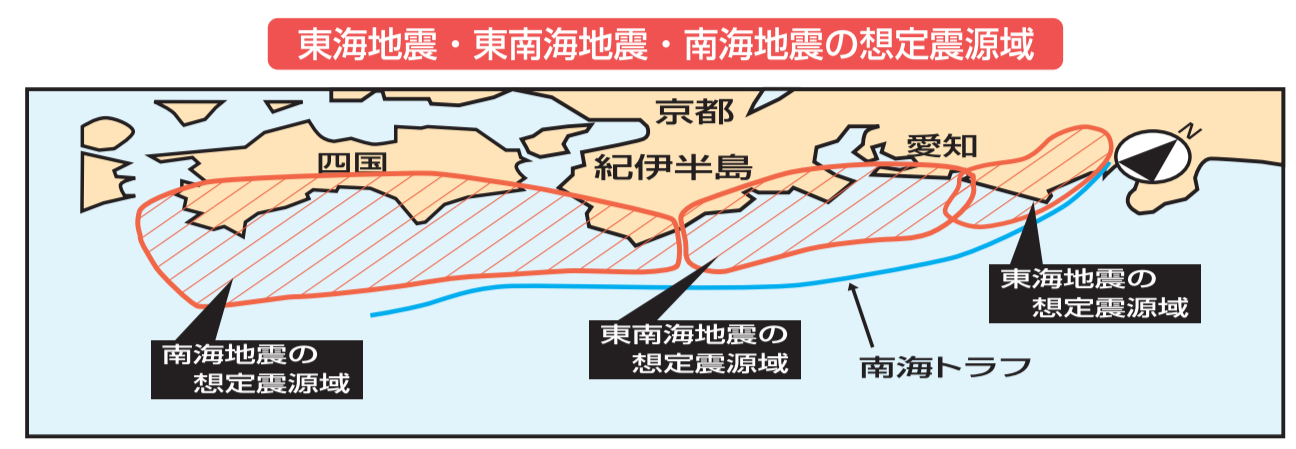
事前準備のファンポイントアドバイス

- 食料と水は3日分が必要
- 1日1人あたりの水の必要量は約3リットル
- 非常食はときどき入れ替えながら保存
- 非常持出袋などは、いつでも持ち出せる場所に

地震を学ぶ

東海地震・東南海地震・南海地震とは？

東海から紀伊半島、四国にかけての太平洋沿岸は、90年から150年に一度、3つの巨大地震と津波に襲われてきました。震源が東海沖の東海地震、紀伊半島沖の東南海地震、四国沖の南海地震で、この3つの地震が同時に発生した場合には、マグニチュード8以上・最大震度6強以上の大地震と予想され、津市においても相当な被害が予想されるため、平成15年12月に「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されました。



待ったなし東海地震!

東海地震は予知が可能です。東海地域で観測されたデータに次のような異常があるとされます。

東海地震観測情報	東海地震注意情報	東海地震予知情報
東海地震とは関連がないと判断できる場合や、しばらく様子を見守る必要がある場合に出される情報です。	東海地震の前兆現象である可能性が高まった場合に出される情報です。	東海地震が発生するおそれがあると認められた場合に出される情報です。直後に警戒宣言が発せられます。
テレビ・ラジオなどの情報に注意し、平常通りお過ごしください。	テレビ・ラジオなどの情報に注意し、国や県、市などからの呼びかけに従って行動してください。	テレビ・ラジオなどの情報に注意し、東海地震の発生に十分警戒し、「警戒宣言」に従って行動してください。

運動性が高い東海・東南海・南海地震!

東海地震が発生すると同時に、東南海・東南海も連動して起こることが予想されます。そのため、現在、国や三重県は東海地震防災対策強化地域と東南海・南海地震防災対策推進地域を指定して、これからの地域に対して、観測体制や防災体制の強化に取り組んでいます。

地震から身を守る～心の備え～

地震発生 身の安全を確保する

<p>1～2分</p> <p>揺れがおさまったら</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇火の始末をする ◇脱出口を確保する 	<p>3分</p> <p>家族の安全を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇火が出たら初期消火 ◇ラジオをつける ◇靴を履く ◇無理せず避難
<p>10分</p> <p>余震に注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇正しい情報を確認する ◇協力して、救出・救護活動 	<p>数時間</p> <p>隣・近所で助け合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ブロック塀に近づくな ◇漏電、ガス漏れに注意
<p>3日</p> <p>飲料水と食料の備蓄を</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇災害情報・広報を入手 ◇親戚・知人に安否を連絡 ◇家を離れる時はメモを貼る ◇壊れた家に入るな ◇無理はやめよう 	

どんな場所でも冷静に行動しよう もしこんなところにいたら・・・

<p>家中</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーブルの下に身を隠す。 ●避難口を確保する。 ●素足で歩かない。 ●火はすみやかに消す。 ●電気器具はコンセントも抜く。 ●ブレーカーを切る。 ●必ず徒歩で。 ●活動しやすい服装で避難する。 ●荷物は背負うようにする。 	<p>屋内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●机の下に身を隠す。 ●転倒や落下に注意。 ●頭を保護する。 ●陳列棚からすばやく離れる。 ●係員の指示に従う。 ●エレベーターは使用しない。 	<p>屋外</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公園や空き地に避難。 ●落下物に注意。 ●建物、ブロック塀、自動販売機などには近寄らない。
<p>路上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●左側に車を寄せ、エンジンを切る。 ●ラジオで情報を集める。 ●避難するときは、エンジンを切ってキーをつけたままに。 ●車検印や貴重品は忘れずに。 	<p>ビル・オフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難口を確保する。 ●階段で避難する。 	<p>車を運転中</p> <ul style="list-style-type: none"> ●つり革や手すりにつかまりつかまる。 ●乗務員の指示に従う。
<p>集合住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難口を確保する。 ●階段で避難する。 	<p>ビル・オフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難口を確保する。 ●階段で避難する。 	<p>バス・電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ●つり革や手すりにつかまりつかまる。 ●乗務員の指示に従う。

火事だ!! そのときどうする?!

初期消火の3原則 日頃から消火器の使い方や水のかけ方を覚えておきましょう

1. 早く知らせる 助けを求めよう
2. 早く消火する 手近なものをフルに活用する
3. 早く逃げる ドアを閉め、空気を遮断する

煙を吸わずに逃げる方法

- ①身を低くして進む。
- ②水で濡らしたタオルで口やおお。
- ③短時間ならポリ袋に空気をいれて顔を覆う。

避難に関する知識

1. 避難をするタイミング
 - 避難勧告や避難指示が出たとき
 - 津波の恐れがあるとき
 - 建物が倒壊する危険があるとき
 - 近隣で火災が発生し、延焼の恐れがあるとき
 - 自宅の火災で火が天井まで燃え移ったとき
 - 危険物が爆発する恐れがあるとき
2. 避難時のポイント
 - 火元を確認
 - ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーも落とす
 - 非常持出品は背負える量で
 - 避難先を記した連絡メモを残す
 - 狭い道、車や自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける
 - 子供、障害者、高齢者などの避難者がはくれないように
3. 車で避難しない
 - 緊急車両の通行を確保することが大切
 - 車の避難は混乱を大きくします
 - 避難場所へは徒歩で移動する

知っておきたい防災まめ知識

津市地震防災マップについて

このマップは、東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合に津市における震度、液状化危険度、津波浸水域分布を示したものです。具体的には、三重県が平成17年3月に作成した「三重県地域防災計画被害想定調査報告書」及び平成16年3月に作成した「東海・東南海・南海地震対策に係る津波シミュレーション調査報告書」等のデータを基に、約500m四方の区画(メッシュ)を単位として作成したものです。(津地域においては平成17年に作成した地震防災マップの既存のデータを活用して作成しています。)しかし、現実の地震は、今回想定した地震と異なる場合もありますので、マップに書かれた震度、液状化危険度、津波浸水域分布が同じ分布とならないこともあります。

覚えておきたい応急手当

阪神・淡路大震災でも、家具の倒壊などで怪我をする人が続出しました。医師に診てもらうまでの処置が適切であるかどうか生死を分けることもあります。とっさの場合にあわてないように、基本的な応急手当の方法をマスターしておきましょう。

<p>出血</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔なガーゼやハンカチを当て、強く圧迫する。 2. 骨折などで圧迫できないときは止血帯を巻く。 3. 止血帯を巻いた時間を控えておく。
<p>骨折</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患部を動かさないようして傷や出血の処置をする。 2. 添え木を当てて固定し、早めに医療機関へ行く。
<p>やけど</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急いで水道水などの流水で十分冷やす。 2. 衣服の上からやけどをした場合は、無理にめがさず、そのまま冷やす。水ぶくれができたときはつぶさない。 3. 冷やした後は清潔なガーゼなどで軽く包む。

災害用伝言ダイヤル「171」のかけ方

震度6弱以上の地震等、災害発生時に災害用伝言ダイヤルサービスが開始されます。事前登録不要です。ガイダンスに従って伝言してください。伝言保存期間は録音してから48時間です。

●伝言の録音方法●	●伝言の再生方法●
<p>171 ガイダンスが流れます</p> <p>1 ガイダンスが流れます</p> <p>市外局番からダイヤル (000) 000-0000</p> <p>被災地の方は自宅の電話番号を 被災地以外の方は被災地の電話番号を 伝言を入れる (30秒以内)</p>	<p>171 ガイダンスが流れます</p> <p>2 ガイダンスが流れます</p> <p>市外局番からダイヤル (000) 000-0000</p> <p>被災地の方は自宅の電話番号を 被災地以外の方は被災地の電話番号を 伝言を入れる (30秒以内)</p>

●大震災の際は携帯電話は使えないと考えてください。公衆電話を利用しましょう。

防災みえ.jp

三重県内における防災関連情報は、防災みえ.jpのホームページで確認できます。インターネットとメールで確かな防災情報をあなたにお届けします。

メール配信の登録方法

パソコンや携帯電話から <http://www.bosaimie.jp> にアクセス

緊急・災害情報
天気・観測情報
地震・津波情報
交通・道路・生活情報

パソコン
↓
トップページの「メール配信」をクリック!

携帯電話
↓
メニューの「Eメール配信登録」をクリック!

仮登録へ進み、同意事項をご確認いただき、登録画面へ。

↓

配信情報を選択し、登録を行ってください。
●情報を入力したい市町村 ●配信を希望する情報の種類

↓

仮登録完了メールが届きますので、本文に記載されているアドレスをクリック!

↓

登録完了! リアルタイムで防災情報をお届けします!

問い合わせ
津市防災危機管理室
〒514-8611
津市西丸之内3-1
TEL (059) 229-3104
FAX (059) 223-6247